



令和8年9月3日

北海道大学の学生による浜通りフィールドプログラムの実施について ～イノベ構想の学びを通じ、学生と住民が小冊子を共創～

福島イノベーション・コースト構想推進機構では、浜通り地域等（イノベ地域）15市町村の担い手拡大を目的に、継続的に人を呼び込むためのコンテンツを開発する事業を展開(*1)しております。

このたび、採択事業者のひとつである一般社団法人双葉郡地域観光研究協会(*2)が、科学コミュニケーションと地域協働の文脈を結び付けるプログラムとして、イノベ構想の現在を知り、地域住民の方とのワークショップを通じて、「イノベ地域での学びの成果」をわかりやすく発信するための共創プログラムを3回にわたり実施(*3)します。

2回目となる今回のプログラムでは、北海道大学の学生が廃炉・農業分野の取組（富岡町・大熊町）や地域の活動（浪江町・双葉町）に触れ、学びや対話のアウトプットとして地域住民の皆さんと小冊子（ZINE）を制作します。（詳細は別紙参照）

各報道機関におかれましては、本事業の取組みを取材いただきたく、ご協力をお願い申し上げます。

記

- 1 開催日：令和8年9月9日（水）～11日（金）（予定）
- 2 対象・参加人数：北海道大学の学生と先生 計10名
- 3 プログラム：詳細は別紙参照
- 4 取材について：※以下以外に応相談場所あり、詳細は別紙参照。

【日時】9/9（水）13:30～14:30（予定）

【会場】廃炉環境国際共同研究センター（CLADS）

（双葉郡富岡町大字本岡字王塚 790-1）

取材をご希望の方は、事前に以下必要事項をご記載のうえ、メールにてお申込みください。

【必要事項】①貴社名 ②担当者所属・氏名 ③連絡先（電話番号、e-mail）
④来場人数 ⑤TVカメラの有無

【宛先等】メール：koryu-sokushin6893@fipo.or.jp

宛先：福島イノベーション・コースト構想推進機構 交流促進部交流促進課 亀島清史

【締め切り】令和8年9月7日（月）17:00

*1 複数事業者に委託して実施

*2 2019年双葉町設立。交流促進の課題をビジネスとまちづくりの両側面から包括的に解決することを目指す。これまで年間400名以上を浜通り地域に受け入れ、直接間接で1万人以上の学生に福島に関する情報発信を行っている。

*3 第1回（8/29～8/31）はロボット・ドローン分野で南相馬市等を訪問。成果物として小冊子（ZINE）を制作。

【お問い合わせ先】公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構

福島オフィス交流促進部 部長 吉成孝志 TEL：024-581-6892（直通）

プログラム概要

集う、創る、叶える、ふくしまで。



福島イノベ機構

※個別の内容・時間帯は変更の可能性があります。

●スケジュール

※赤字部分が取材可能な時間帯となります。

ご希望内容ありましたら、申込時にご記載ください。

9月9日（水）

- ・朝、双葉駅到着後、双葉まち歩き（双葉駅周辺）
- ・東日本大震災・原子力災害伝承館見学



- ・ **【撮影・インタビュー可】**
**13:30～14:30 廃炉国際共同研究センター（CLADS）の
取組説明**



- ・大熊町取組説明@大熊町内各所



- ・大熊町取組説明後、あまの川農園訪問

9月10日（木）

- ・地域住民（双葉町・浪江町）の語り部セッション



- ・ **【取材応相談】※以下ご希望あれば申込時にお知らせください**
- ・ **（株）ReFruits様訪問、取組説明（11:15～12:15@大熊町内）**
※ご希望の場合は、詳細な場所等をご案内いたします。



- ・ **【取材応相談】※以下ご希望あれば申込時にお知らせください**
- ・ **町民とのワークショップ（ZINEづくり）等**
（18:00～19:30@浪江町内）
※ご希望の場合は、詳細な場所等をご案内いたします。

9月11日（金）

- ・振り返り・ワークショップ（ZINEづくり）その後、双葉駅解散



【参考】一般社団法人双葉郡地域観光研究協会 (F-ATRAs) について

f-discover.com



双葉町に暮らしながら、「観光」をテーマに「町づくり／産業づくり」に取り組むF-ATRAs。
国際色豊かなその研究メンバー。
地域の再生にむかって、町を探索し、語らい、その魅力を多角的に発信をしていきます。

【山根 辰洋（代表理事）】

東京都八王子市出身の双葉町民。東日本大震災をきっかけに復興支援をキャリアにし、**2013年**、福島県双葉町に委嘱職員として参画。**2016年**に双葉町民と結婚し、山根姓となったことを契機に、支援者から地域を創る当事者として、生業（人生）を通じた地域再生を目指し独立。**2019年**、観光産業、交流・関係人口創出を通じた地域再生を目指すソーシャルベンチャー、一般社団法人双葉郡地域観光研究協会（F-ATRAs）を設立。**3**姉妹の父。その他、一般社団法人双葉郡未来会議理事、一般社団法人大熊未来塾理事、双葉町議会議員も務める。

【Swastika Harsh Jajoo（マネージャー）】

インド・ニューデリー生まれ。東北大学時代は研究活動の傍ら、日本に住むパキスタン人小学生や県内高校生への日本語指導に取り組んできた。現在はF-ATRAsのマネージャーとして、双葉町の現在を知るツアー、相双地域のインバウンド向けツアー、インド人の短期滞在プロジェクト等を企画・実施している。浪江町では町事業の英語教室で講師を務める。

【Trishit Banerjee（マネージャー／リサーチャー）】

インド・ムンバイ郊外生まれ。東北大学在学中に仙台放送の観光アンバサダーとして、東北地方をインドに英語で紹介する役割を担う。また、大学内で学生英語新聞を創刊し、仙台市内の高校生に科学コミュニケーションを指導する。F-ATRAsでは、ツアー開発や言語サポートに加え、会社の潜在市場を探索する役割を主に担う。

【韓 在賢（アソシエイト）】

1998年生まれ。韓国ソウル出身。**2014年**のセウォル号沈没事故などを通じて、防災や復興、地域社会のあり方に強い関心を持つようになる。日本留学を志して**2019年**に東北大学文学部へ入学。大学在学中からフィールドワークや学外企画を通じて被災地を訪れ、防災・復興に関わる活動に継続的に取り組む。卒業後は兵役を経て再来日し、**2026年3月**よりF-ATRAsに参画。

<配布チラシより>
掲載内容はイメージです。



土と食がえがく、 まちと農業の未来。

2026.9.9-9.11

双葉町
浪江町
大熊町
富岡町

SCIENCE × ART

科学と暮らしを、対話と表現でつなぐ

北海道大学

ゲストレクチャー × 対話 × ZINE ワークショップ

ゲスト講師

東北大学大学院農学研究科・農学部

加藤 一幾 准教授



参加申込



QRコードまたはメール

主催：公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構 (FIPO)
実施：一般社団法人双葉郡地域観光研究協会 (F-ATRAs)



お問い合わせ
パネルジー・トリシット (F-ATRAs)

MAIL : trishit@f-atras.jp
TEL : 080-5744-2211

農業を、暮らしのことばで考える。

01 | 大学連携フィールドプログラムとは

FIPOが主催し、F-ATRAsが実施する、2泊3日の大学連携フィールドプログラムです。北海道大学の学生が浜通りを訪れ、研究者、行政、企業、地域で暮らす人々の話を聞きます。

先端技術だけでなく、その技術が使われる地域の暮らしを、同じ時間の中で考えることを大切にしています。

02 | サイエンスコミュニケーションとは

専門家が、科学を知らない人に一方的に答えを教えることではありません。研究者、学生、地域の人々が、それぞれの知識、経験、疑問、価値観を持ち寄り、科学と暮らしの接点を一緒に考える対話です。

03 | なぜ地域のみなさんと考えるのか

農業技術や新しい栽培方法は、最終的には実際の地域の農業や暮らしの中で使われます。地域で暮らす人の疑問、不安、記憶、期待は、論文や施設見学だけでは得られない大切な知識です。

誰かが地域全体を代表する必要はありません。一人ひとりの視点を、学生や研究者と持ち寄ります。

04 | 当日の流れ

- ① ゲストレクチャー
- ② 大学生・研究者・地域参加者による対話
- ③ みんなで ZINE づくり

05 | ZINEとは？

ZINE（ジン）は、小さな自主制作の冊子です。短い言葉、一つの単語、絵、写真、コラージュ、図形など、好きな方法で参加できます。絵やデザインの経験は必要ありません。その日に生まれた問いや視点を、みんなで一つの形に残します。

※ 本事業は（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構「令和8年度 福島イノベーション・コースト構想 地域魅力開発の担い手創出事業」に採択されています。

<配布チラシより>
掲載内容はイメージです。

